

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0970201240
法人名	医療法人社団 隆成会
事業所名	グループホームあじさい
所在地	栃木県足利市多田木町1190 (電話) 0284-90-2201

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年2月18日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】 (平成22年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤6人(うち兼務2人), 非常勤1人, 常勤換算7.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,400円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費—18,000円</li> <li>・日用品費—4,500円</li> <li>・教養娯楽費—3,000円</li> <li>・理美容代, おむつ代—実費</li> </ul>	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有(退所時)	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	150円
	または1日当たり	1,150円		

(4) 利用者の概要(平成22年1月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		1名	要介護2		3名	
要介護3		3名	要介護4		2名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	87歳	最低	76歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	皆川病院, はぎわら歯科医院, 介護老人保健施設四恩苑
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、以前から地域医療に多大な貢献をしてきた病院が母体であり、敷地内に病院や介護老人保健施設が併設されている。法人の理事長である医師の2週間に1回の往診がある他、管理者をはじめ3人の看護職を配置するなど医療との連携が充実しており、入居者や家族に安心感を与えている。ホームでは家庭的な雰囲気の中で、入居者が安心・尊厳・歓びのある生活を営めるよう継続的に自立支援を行うこと等を基本理念として掲げており、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。高台という立地条件であり、景観も良い。法人内の研修を毎月2回以上は開催している他、外部研修にも積極的に職員を参加させる等、人材育成にも力を入れているホームである。</p>
---

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果については、運営者からの指示もあり、運営推進会議に報告するとともにスタッフ会議等で、地域との交流のあり方や入居者へのより良いサービスの提供について話し合う等、改善に向けた取り組みに活かしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員が意見を出し合い、管理者及び主任がまとめあげた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は入居者家族、自治会長、地区民生委員、市職員が構成員となり、2ヶ月毎に開催している。会議ではホームの運営状況や行事、入居者の暮らし等々の報告を行うとともに家族からの要望、地域行事の予定等を教えてもらっている。また、ホームの周知についての助言をもらっている。すべての家族に呼びかけているが特定家族の出席が多い状況にある。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書にホームの苦情等受付窓口及び処理体制・手順を明記しており、家族へは入居時に説明をしている。玄関には苦情・意見箱を設置しているが、苦情や意見等が寄せられたことはない。家族からは来所時等に意見や要望等の確認を行っており、例えば外出先やホームでの書道の実施等の要望を日々の支援に取り入れている。苦情や意見等が出された時は、申し送りノートで職員間での情報の共有や話し合いにより改善に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>高台という立地条件にあり、日常的に地域住民と交流することは困難であるが、地域の運動会や文化祭、地元の小・中学校の運動会等には積極的に出かけるなど交流に努めている。また、近隣中学校の体験学習の受け入れも毎年行っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、入居者が安心・尊厳・喜びのある生活を営めるよう、継続的に自立支援を行っている。また、一人ひとりの人間性をよく理解することに努め、それぞれの人格を尊重し、常に入居者の立場に立ったサービスを提供することを基本理念として、理念に沿ったケアが提供できるように心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念をリビングに掲げると共に職員間で話し合い作りあげた、「穏やかな態度で、暖かい言葉かけをする職員」という方針を事務室に掲示している。また、申し送り時や職員会議等で理念に沿ったケアができているかを話し合い、入居者が地域の中で少しでも長く生活できるよう理念の実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高台という立地条件にあり、日常的に地域住民と交流することは困難であるが、地域の運動会や文化祭、地元の小・中学校の運動会等には積極的に出かけるなど交流に努めている。また、近隣中学校の体験学習の受け入れも毎年行っている。	○	地域の自治会の役員や近隣の住民に積極的に声をかける等、気楽にホームに来所してもらえる関係の構築に向けた取り組みをとおして、さらに地域との交流が深まることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、運営者からの指示もあり、運営推進会議に報告するとともにスタッフ会議等で、地域との交流のあり方や入居者へのより良いサービスの提供について話し合う等、改善に向けた取り組みに活かしている。今回の自己評価は、職員が意見を出し合い、管理者及び主任がまとめあげた。		

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者家族、自治会長、地区民生委員、市職員が構成員となり、2ヶ月毎に開催している。会議ではホームの運営状況や行事、入居者の暮らしぶり等の報告を行うとともに家族からの要望、地域行事の予定等を教えてもらっている。また、ホームの周知についての助言をもらっている。すべての家族に呼びかけているが特定家族の出席が多い状況にある。	○	地域包括支援センターの職員にも参加を依頼する他、議題によっては駐在所の警察官や消防団にも参加を呼びかけ、運営推進会議がより活発な意見交換の場となることを期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議時に意見交換やホームの現状・課題を伝えている他、市担当職員からは書類の提出や制度上の相談時に訪問や電話等で助言を仰いでおり、常に連携に努めている。	○	入居者のサービス向上や地域における認知症ケアの向上のためにも市と共に事業を実施していく他、地域包括支援センターとも連携し、待機者の情報を共有する等、今後も積極的に連携を行っていくことに期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎日或いは2、3日毎に来所している家族が多い他、利用料の支払いに月1回は来所があるので、その際に入居者の日々の暮らしぶりや健康状態等を伝えている。預かり金についても定期的に報告している。また、職員紹介のため、玄関に職員の顔写真を掲示している他、異動等の際にはその都度、紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情等受付窓口及び処理体制・手順を明記しており、家族へは入居時に説明をしている。玄関には苦情・意見箱を設置しているが、苦情や意見等が寄せられたことはない。家族からは来所時等に意見や要望等の確認を行っており、例えば外出先やホームでの書道の実施等の要望を日々の支援に取り入れている。苦情や意見等が出された時は、申し送りノートで職員間での情報の共有や話し合いにより改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動は殆ど行われていない。法人内部の異動がある場合でも引継ぎを徹底し、入居者への影響がでないようにしている。また、職員を採用する際には、管理者及び主任がホームに合う人材かどうかを見極めて採用するなど、スムーズな運営に向けて取り組んでいる。		

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修は、毎月2回以上の定期的な研修が実施されており、安全対策や感染症対策等を学んでいる。また、介護雑誌等から情報を得る等して、職員一人あたり年2回程度は外部研修に参加させている。外部研修に参加した後は、スタッフ会議で伝達したり資料を供覧して情報の共有化を図っている。また、職員は自主的に休日を利用して講習会等に参加し資格取得にも努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、研修会等に参加している。また、市内の他グループホームとは相互訪問をする等の交流を図っている。現在、ホームでは作成していない広報誌「ホーム便り」作成のためのノウハウや検討材料を他事業所から情報提供をしてもらっている等、サービスの質を向上させていく取り組みに活かしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人の医療機関や介護老人保健施設からの入居申込みが多いが、入居前には出来るだけ本人や家族にホームでの生活の様子を見学してもらい、要望や不安の把握に努めている。また、居室が空いている時には体験入居をとおして、ホームの雰囲気を感じてもらう、納得した上での入居に繋げている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の風習や郷土料理、昔の遊び等、入居者の知恵を教えてもらったり、洗濯物干しやたたみ、食器洗い等を一緒に行い、職員も入居者と共に喜びや楽しみを分かち合いながら、良好な関係を維持するように努めている。		

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での仕草や表情から外出の希望、食べ物の好み等、入居者の一人ひとりの思いをくみ取るように努めている。意思表示の確認が難しい場合には、家族を通して把握した生活暦等の情報や職員の気づき等を踏まえて、本人の希望を押し量っており、本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の要望をあらかじめ確認してから、介護計画作成担当者（ホーム主任）、担当職員、その日に勤務している職員で話し合いを行い介護計画を作成している。また、実行表を作成しており、作成した介護計画の取組状況や達成度等の把握に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月を基本として定期的な見直しを行っている。怪我や病気等で入居者の状態に変化が生じた場合には随時見直しを行っている。また、日々の支援方法の修正等はその都度話し合い、申し送り等で職員間の共有を図るようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。隣接する同法人の介護老人保健施設が主催する運動会や敬老会、慰問で実施される歌謡ショーや八木節にも参加している。また、同法人の医療機関も敷地内に隣接しているので、体調が急変した場合でも迅速に対応してくれる体制になっており、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をしているが、殆どの入居者が同法人の協力医療機関をかかりつけ医に指定している。診療科目にない精神科と歯科は市内の他医院にお願いしており、通院が必要な場合は職員が付き添いを行い、受診後には家族に状況を報告している。また、医師である理事長が2週間に1回往診する体制が取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは「重度化した時の指針」を定めており、入居時に家族に説明すると共に要望の確認をしている。重度化した時には家族と再度話し合いを行い、出来る限り家族の要望に沿うようにと考えている。しかし、敷地内には同法人の協力医療機関があることから、看取りは病院で行うのが現実であり、ホーム内で看取った事例は無い。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居時に、一人ひとりの好む呼び方を確認しており、職員全員が同じ様に言葉掛けをするようにしている。日々の支援においても職員は入居者の誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。個人情報記載されている記録類は、事務室内で保管・管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間等の大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりのペースで自由にゆったりとした流れで過ごせるように心がけており、入居者のリズムに配慮した支援に努めている。		

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助が必要な入居者がいるので、職員全員と一緒に同じものを食べられないが、同じテーブルで入居者と会話を楽しみながら食事をしている。食事準備や後片付けも職員と入居者が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後の時間帯が基本になっているが、失禁した時などは時間に関係なく入浴してもらうようにしている。2、3名の入居者は毎日入浴しているが、拒否する時等は無理強いせず翌日に再び声かけを行う等して、入浴を促している。浴室、脱衣所とも十分な広さとなっている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの入居者が出来ることに配慮し、掃除、洗濯物干しやたたみ等の役割を分担しており、張りのある生活が送れるように支援している。また、ちぎり絵や絵画、書道や歌等のレクリエーションを多数用意して気晴らしの支援にも努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺への散歩や買い物、ドライブの他、月に1回程度は全員が参加する外出や外食の機会を設けている。市内だけでなく佐野市や太田市等にも出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は行っていない。ホームが駐車場から更に高台にあり、玄関から坂道になっていることもあり、入居者が外出する時は転倒防止の意味で職員が付き添っている。夜間時はセキュリティシステムを利用し、入居者の安全・安心に取り組んでいる。		

グループホームあじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	敷地続きの同法人病院や介護老人保健施設との合同避難訓練を年2回実施している。内1回は夜間時を想定した訓練も実施している。ホーム単独での訓練は実施できていない。	○	同法人内の協力体制には取り組んでいるが、火災や地震等の災害時には事業所だけでの対応の限界も見極め、地域との防災訓練の実施や消防団への協力依頼を行う等、地域からの協力体制の構築に向けた取り組みに期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作成しており、定期的に法人の管理栄養士から助言を受けている。食事や水分の摂取量を記録しており、一人ひとりの状態の把握に努めている。また、ミキサー食など入居者の状況に応じた食事の提供も行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には家庭的なものを取り入れている。他、壁には入居者が作成した「ちぎり絵」などの作品が掲示されており、明るい落ち着いた空間になるように心がけている。採光や換気には気を付けており、不快な光や臭いは感じられない。床暖房が敷設されており穏やかな暖かさが保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に家族に本人が使い慣れた品々を持参してもらうようお願いしており、各居室にはベッド、テレビ、仏壇、物入れ、家族の写真等が持込まれている。また、壁には手作りのカレンダーや習字等の入居者の作品が掲示されており、本人が安心して落ち着いた生活がおくれるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。